

こんにちは。3月を迎えてもまだまだ息が白くなる日々が続いていますが、春はもうすぐです。来月からは新年度。来月には新しい学校、新しい学年が始まりますね！気持ちも新たに頑張っていきましょう。そんな今月は心も春のようにあたたかくなる1冊をご紹介します。

『べんけいとおとみさん』

石井 桃子 作 山脇 百合子 絵 福音館書店 1680円

よみもの

<お勧め年齢>

幼稚園★★☆ 小低学年★★★ 小中学年★★★ 小高学年★☆☆ 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ 一般 ☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

ある家におとみさんというねこ、かずちゃんという男の子と、まりちゃんという女の子と、べんけいという犬がいました。この四人のなかでいちばんうちはだれかって？それはねこのおとみさんです。だっておとみさんは9さい、かずちゃんは7さい、まりちゃんは5さい、べんけいは3さいなんですから。この本にはこの4人のおはなしが12はいています。おしょうがつにはじまり、まめまき、たなばた、おつきみ、クリスマスなどたのしいぎょうじもいっぱいです。いつもお姉さん風をふかせるおとみさん、すえっこであまえんぼうのべんけい、そしてなかよしのかずちゃんとまりちゃん。それにおかあさんとおとうさんがくわわって、いつでもちょっとまがぬけたたのしい事件がおこるのです。

<子どもに手渡すときのポイント>

この本は1985年に初版が発行されましたが、今回作者の石井桃子先生の100歳の誕生日を祝って復刊されました。いまから20年以上も昔の本なのに、お姉さん風をふかせるおとみさんや、あまえんぼうのべんけいの姿は今読んでも心がほかほかとあたたかくたのしい気持ちになれます。低学年よりも下のお子さんにはおはなしをひとつずつ大人の方が読んであげることをお勧めします。絵本からよみものへ移りたいお子さんの最初の1冊としてもお勧めです。ひとつひとつの物語は短くそれでいて楽しめますし、挿絵も親しみのある絵ですから読み出したら夢中になること請け合いです。ページ数が少し多いので大人がそのおもしろさやよみやすさを子どもたちに教えてあげることで背中を少し押してあげることが必要かもしれません。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

早良図書館 吉岡 さやか